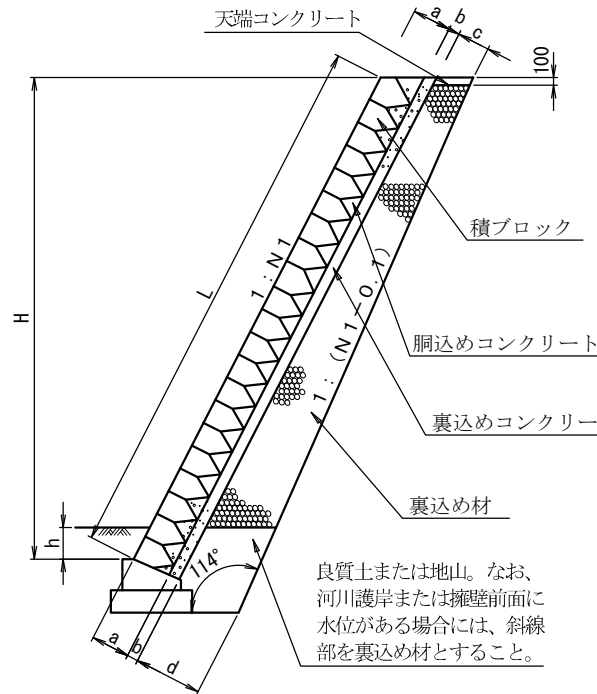


工種	種別	形状	変数	作成年度
水路	コンクリートブロック積	水路用	H	2019

コンクリートブロック積（水路用）

標準断面図



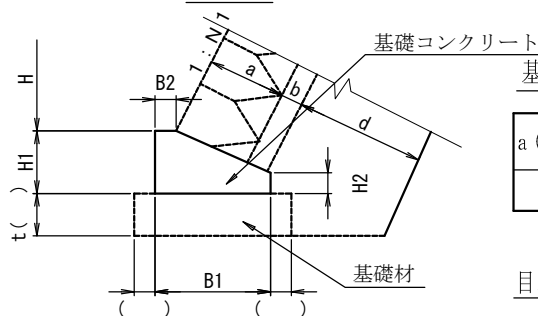
寸法表

H(直高) (m)	L(のり長) N1(前面勾配)			控長 a	裏込めコン クリート厚さ b	裏込め材厚さ							
	1:0.3	1:0.4	1:0.5			U1(裏込め土が良好な場合)			U2(裏込め土が普通な場合)				
						c			d				
1.00	1044	1077	1118	350	100	200	344	339	334	300	444	439	434
1.50	1566	1616	1677	350	100	200	392	386	379	300	492	486	479
2.00	—	2154	2236	350	100	200	—	432	424	300	—	532	524
2.50	—	2693	2795	350	100	200	—	479	468	300	—	579	568
3.00	—	3231	3354	350	100	200	—	525	513	300	—	625	613
3.50	—	—	3913	350	150	200	—	—	562	300	—	—	662
4.00	—	—	4472	350	150	200	—	—	607	300	—	—	707
4.50	—	—	5031	350	150	200	—	—	652	300	—	—	752
5.00	—	—	5590	350	150	200	—	—	696	300	—	—	796

材料表

H(直高) (m)	裏込め材 (m ³)						裏込めコンクリート (m ³)		
	U1(裏込め土が良好な場合)			U2(裏込め土が普通な場合)			裏込めコンクリート (m ³)		
	1:0.3	1:0.4	1:0.5	1:0.3	1:0.4	1:0.5	1:0.3	1:0.4	1:0.5
1.00	0.149	0.153	0.158	0.212	0.218	0.225	0.106	0.113	0.121
1.50	0.301	0.308	0.317	0.416	0.427	0.440	0.158	0.167	0.177
2.00	—	0.489	0.502	—	0.661	0.681	—	0.221	0.232
2.50	—	0.694	0.711	—	0.920	0.946	—	0.274	0.288
3.00	—	0.924	0.945	—	1.204	1.236	—	0.328	0.344
3.50	—	—	1.205	—	—	1.551	—	—	0.602
4.00	—	—	1.489	—	—	1.891	—	—	0.686
4.50	—	—	1.798	—	—	2.257	—	—	0.770
5.00	—	—	2.133	—	—	2.647	—	—	0.854

基礎



基礎寸法表および材料表

a(控長)	b(裏込めコン クリート厚さ)	寸法表				材料表 (1m当り)		
		B1	B2	H1	H2	コンクリート(m ³)	型枠(m ²)	基礎材(m ³)
350	100	520	100	300	100	0.114	0.400	
	150	550	100	350	100	0.136	0.450	

目地厚の標準値

構造物の目地間隔	目地厚
10m以内	10mm
20m以内	15mm

裏込め材料計算一般式 (m ²)
擁壁前面に水位がない場合 $A = \frac{(H-h-0.1)}{2} \left\{ 2c\sqrt{1+N^2} + 0.1(H-h+0.1) \right\}$
河川護岸または擁壁前面に水位がある場合 $A = \frac{(H+H1+t-0.1)}{2} \left\{ 0.1^2 + 2c\sqrt{1+N^2} + 0.1(H+H1+t) \right\}$
天端コンクリート材料計算一般式 (m ²)
$A = 0.1(a+b+c)\sqrt{1+N^2}$

注意事項

- 1、中間の設計条件に対しては、直近上位のものを使用すること。
- 2、ブロックは、圧縮強度 $\sigma c k = 18N/mm^2$ 以上とし、1m²当りの使用質量は、350kg以上であること。
- 3、裏込めコンクリート、胴込めコンクリートおよび基礎コンクリートは、 $\sigma c k = 18N/mm^2$ 以上とすること。
- 4、裏込めコンクリートおよび裏込め材の寸法は、前面勾配に直角として表示してある。
- 5、寸法表中の裏込め材厚さ (d) は、基礎材厚 (t) を20cmと仮定してある。
- 6、材料表中の裏込め材の数量は、根入れ深さ (h) を30cmと仮定してある。したがって、根入れ深さがこれと異なる場合は、別途計算すること。また、河川護岸または、擁壁前面に水位がある場合は、図中の良質土または地山の部分も裏込め材とすること。
- 7、比較的良好な地山の切土部に使用する場合は、裏込め材を上下等厚とし、材厚30~40cmとしてよい。
- 8、基礎材は、基礎地盤の状況に応じて別途検討し、材種、敷厚および数量を該当する箇所に明記すること。
- 9、原則として水抜きパイプは設けない。ただし、逆流防止の水抜き管を設ける場合がある。設置する際には2m²に1箇所を原則とする。水位がある場合は、設けないこととする。
- 10、伸縮目地は20m以内に1箇所設けるものとする。材料は樹脂発砲系のもを原則として使用する。
- 11、寸法表、材料表、基礎寸法表および材料表の該当する部分を赤線で囲むなど、使用箇所を明記するのがよい。
- 12、足掛金物は片岸護岸延長100m以内に1箇所設置を標準とする。